

「イエスは守り、乗り越え、はげました」

ローマ9章

遠藤一則

日本のアニメは今、世界中の子供たちに人気があります。そしてその中でも絶大なる人気を誇るものの一つは「ワンピース」であります。子供たちが DVD を借りてみているので自分もそれとはなしにながめておりました。最初はなぜこのアニメに人気があるのか、よくわかりませんでした。なぜなら主人公のルフィー君の行動が何を基準にしているのかがよくわからなかったのです。彼は何かの法律に従っているわけではない。かといって、自分の主君などがいてその人に従っているわけでもない。だとしたら、彼の行動規範はどこにあるのかという、しょうもないことを考えてしまうわけです。そして、頭の中で考えます。例えば、彼が日本の首相だったとしたら、どうなるのか。彼が最高裁の長官だったらどうだろう。また彼が校長先生で1000人くらいの生徒たちをあずかっていたとしたら、と想像してしまうわけです。

そして、こういう結論に達しました。これはアニメの世界だからいいのだ、その一瞬一瞬、気持ちがいすっきりすればよいのだ。これは仲間を大切にするという一人の男、そして彼には夢があり、そこにいたるプロセスの内に人の心を打つ感動があるのだと理解したのです。キーワードは仲間です。

高校生にアンケートをすると、このワンピース現象が少し、かいま見えます。30年前は彼らに「君は何を信じるか」と聞くとほぼほぼ「自分」そしてたまに「金」、または「有名人」、ということが書かれていました。それに加えて、この10数年は「仲間」と書く生徒がいるようになっています。仲間を大切にする文化が定着しているのですね。しかし、これをもって激しく宣言した人物がいます。使徒パウロです。彼は自分の同胞ユダヤ人の救いのために自分が神から呪われていい、とさえ言いました。なぜ彼はこんなことを言うことができたのでしょうか。罪人の自分が身代わりになっても、人類の救いを達成することはできません。彼がこの言葉を発したのは、彼の気持ち以上に主イエスの心がそこに代弁されているのです。そして主はそれを果敢に実行し、十字架にかかられました。

さて、神は律法という行動規範を人間に与え、人の行動を完全にしぼり、してよいことと、してはいけないことを人間に示しました。これは旧約の律法に限らず、どこの国でも見られる現象です。ただ律法は神のあわれみでもあります。なぜなら、人に律法を守れ、という神はその律法の約束のもと、ご自分を制限するわけですから、律法さえ守ってれば、人は何をやってもいい、決して裁かれないのです。これが旧約的自由の概念です。しかし、ローマ書において主は、この律法を完全に越えておそろしい言葉を発せられました。「わたしは自分のあわれむものをあわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ」、簡単に言えば、ご自分をしぼる旧約の律法を廃棄し、何と律法を守っていても、それで十分ではないという世界を宣言されたのです。これは行動規範のないワンピース、ルフィーの世界に

近いのではないのでしょうか。それはまた、律法以前のヨブ記の世界観に近く、どんなに敬虔に生きても、その人がとてつもなく不幸になる（最後は回復しますが）ことがありえるということになります。しかも主は主ですから、人が不幸になろうがなるまいが、そんなことを気に病んだりする必要はありません。まさに陶器師が不具合な陶器を廃棄処分にしても勝手気ままであることと同じです。その世界においては、主の裁きが一体どこから飛んでくるかわからず、何かにつけて「罰があたる」「神の怒りをなだめる」「そのためには人をもいけにえにする」という恐れにみちた、神経質社会が現出するのです。

では西暦2017年の今、私たちは主の恐怖社会に生きているのでしょうか。決してそんなことはありません。なぜなら、神は律法ではない、主からの一方的な約束のもとに人とご自分の関係をつくり直されたからです。その約束とは「キリスト・イエスにあるものが罪にさだめられることは決してない」との約束です。ヨブ記以前律法のない時代、主は人間をその良心に従い、示された罪をくいあらため、いけにえをささげることによって罪をみすごされました。律法の時代、主は人が律法をまもることによって裁きを逃れる道を備えられました。人が律法を悪用したがゆえに、それはあわれみの道ではなく、人を裁く道へと変えられてしまいました。主のことばはあたかも「わたしは自分のきらい者をきらい、自分の憎む者を憎む」蚊のように受け取られるようになってしまいました。

そして西暦30年、世界は一変しました。イエスが十字架にかかり、全人類の罪をおい、それを自分のためだと信じる者は完全に罪赦される、という狭いながらも、しっかりとした道が築かれたのです。罪人をただ「きらい、憎み」目には目を、歯には歯を、と叫んでいた世界、そのために自分自身をも神の怒りのもとに置き、心閉ざして生きるしかなかった世界が、罪人を「あわれみ、いつくしむ」世界へと変えられたのです。なぜ変えられたのでしょうか。十字架の苦しみの中、主イエスが発した言葉によるのです。そのことばがキリスト処刑に立ち会った百人隊長を変え、弟子たちを変え、社会を変えました。今日、私たちもその言葉をかみしめましょう。

「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか、自分でわからないのです」